

使徒の働き4章5－12節 「権威者の前で」

1A 指導者たちの前 5－8

1B 三度の否定 5－6

2B 誘導尋問 7

3B 聖霊の満たし 8

2A 大胆な証言 9－12

1B 良い行い 9

2B ナザレ人イエス・キリストの御名 10

1C 十字架

2C 死者からの復活

3B 家を建てる者たちの捨てた石 11

4B 御名のみにある救い 12

本文

使徒の働き 4 章を開いてください、私たちの聖書通読の学びは 3 章まで来ました。使徒たちの力あるわざが行われ、生まれつき足のきかない男を、ナザレ人イエス・キリストの名によって立ち上がらせました。そして、神殿において、イエス・キリストを力強く宣べ伝えました。そして、かつてイエス様ご自身が受けた圧力と反対を、ペテロも受けることになります。「マタ 21:23 祭司長たちや民の長老たちがイエスのもとに来ていった。『何の権威によって、これらのことをしているのですか。だれがあなたのその権威を与えたのですか。』」神殿を管轄し、神に関する事柄については権威である祭司長たちや長老たちが、イエス様が自分たちの権威に挑みかかっていると脅威に覚えたのです。今、ペテロの力強い説教から、同じように脅威を抱いたのです。しかし、ペテロは大胆にも、ますます勢いよく主イエス・キリストを宣べ伝えます。12 節を読みます、「**この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。**」13 節を見ると、指導者たちは彼らの大胆さに驚いたとあります。

ところで、私たちは普段、自分たちがプロテスタントの教会にいるということは、ほとんど意識していません。けれども、歴史的には、ルターから始まるプロテスタントの運動の中にいます。ルターがいた時の西洋の世界は、カトリック教会が権威を持っていました。その権威は、今でいうならば国家の権力に匹敵するぐらいの、絶大な権威でした、けれどもルターは、「キリストの教会は、神の僕であり、神の言葉また命令であると認識していること以外には従えない。しかしローマ教皇は自らの言葉を最終権威としてキリストの言葉を自分に従わせている」と、当時の教会を激しく批判して破門されました。そして、帝国議会に召喚されて、自説の過ちを認めるように迫られました。居並ぶ国家の権力者と教会の権力者の前に、彼はこう演説を締めくくりました。「聖書の証に

よってわたしの誤りを証明し、わたしの良心が神の言葉によってとらえられない限り、わたしは何事も取り消すことはできません。なぜなら良心に反して行動するのは、なすべきことではないからです。わたしは断固としてここに立つものです。それ以外のことはできません。神よ、わたしを助けてまえ。アーメン。」¹

この「我、ここに立つ！」という言葉は、非常に有名です。人間の最高権威が要求したとしても、聖書の言葉だけが人を救うのであり、私はここに立つとしたのです。ルターのこの姿勢は、主ご自身に倣ったものでした。「私は、すべてのものにいのちを与えてくださる神の御前で、また、ポンティオ・ピラトに対してすばらしい告白をもって証しされたキリスト・イエス・（イテモテ 6:13)」そのまま、ご自身についての真理を伝えるものなら、殺されてもおかしくないのに、いや、事実殺されたのですが、主は臆することなく、ご自分のことを告白されました。「ヨハ 8:32 真理はあなたがたを自由にします。」と主は言われましたが、権力者の前でも真理に立つ自由が与えられており、神の前で責任を引き受けて生きる力が、私たちには与えられています。

1A 指導者たちの前 5-8

それでは5節からの本文を読んでいきたいと思います。

1B 三度の否定 5-6

⁵ 翌日、民の指導者たち、長老たち、律法学者たちは、エルサレムに集まった。⁶ 大祭司アンナス、カヤパ、ヨハネ、アレクサンドロと、大祭司の一族もみな出席した。

ペテロとヨハネが、足なえの男が立ち上がった後に、集まって来たユダヤ人たちに話していたら、祭司たち、宮の守衛長、サドカイ人たちがやって来て、二人に手をかけて捕らえました。既に夕方なので、翌日まで留置していました。そして、サンヘドリンと呼ばれる、ユダヤ人の意志決定機関である最高法院を開きました。

イエス様は、ここに集まってきているアンナスまたカヤパの前で、ご自分が神の御子キリストであることを告白しました。その時にペテロは、中庭にいました。そして、若い女中が近づいて、「あなたも、あの人の仲間でしょう。」と問い詰めると、知らないといって否定したのです。鶏が鳴くまで、三度、イエス様を知らないと言いました。イエス様がペテロたちに、「マタ 26:42 霊は燃えていても肉は弱いのです。」彼は、自分の命を捨てても、主について行くと行けていたのに、その肉の弱さから、敵の当たる火で体を温め、主を三度も知らないと言ったのです。今、中庭ではなく、まさに真ん中に立たせられています。民の指導者たち、長老たち、そして律法学者たちによる裁判にかけられているのです。しかも、その出来事は、つい最近に起こったことです。

¹ <https://oibaptist-ch.net/%E3%80%8C%E6%88%91%E3%80%81%E3%81%93%E3%81%93%E3%81%AB%E7%AB%8B%E3%81%A4%EF%BC%81%E3%80%8D>

2B 誘導尋問 7

⁷ 彼らは二人を真ん中に立たせて、「おまえたちは何の権威によって、また、だれの名によってあの様なことをしたのか」と尋問した。

何の権威によって？と問い質され、彼らが権威に言い逆らっていると誘導尋問しています。「だれの名によって」というのは、まさに誘導です。申命記に、このような律法があります。「13:1 あなたがたのうちに預言者または夢見る者が現れ、あなたに何かのしるしや不思議を示し、2 あなたに告げたそのしるしと不思議が実現して、「さあ、あなたが知らなかったほかの神々に従い、これに仕えよう」と言っても、3a その預言者、夢見る者のことばに聞き従ってはならない。…5a その預言者あるいは夢見る者は殺されなければならない。」今、生まれつきの足なえをよみがえらせた。ですから、しるしを行って、それをまことの神、主ではない他の名に仕えるようにそそのかすのなら、それは偽預言者だから殺さなければいけないということで、イエスの名を信じさせようとしていることで、ペテロとヨハネを罰することを考えていました。

3B 聖霊の満たし 8

ここで、恐れ退いて、イエスのイの字も口に出さないほうが賢明だということになるでしょう。しかし、ペテロは 12 節にあるように、いよいよ大胆に主の御名を宣言するのです。その力はどこから出ているのか？^{8a} そのとき、ペテロは聖霊に満たされて、彼らに言った。「民の指導者たち、ならびに長老の方々。

「聖霊に満たされて」とあります。これが、ペテロを全く変えてしまった源泉です。「1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」聖霊が上に臨まれて、それで力を受けて、イエス様の証しを立てることができたのです。ここで、ペテロがいろいろと考える暇もなかったでしょうし、聖霊で満たしてくださいという祈りを献げる時間さえもなかったことでしょう。けれども、その時にちょうどペテロが聖霊に満たされたのです。イエス様は前もって、お語りになっていました。「ルカ 12:11-12 また、人々があなたがたを、会堂や役人たち、権力者たちのところに連れて行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配しなくてよいのです。言うべきことは、そのときに聖霊が教えてくださるからです。」

どんな人の前でも、何を語ればよいのか聖霊が教えてくださいます。言うべき言葉を与えてくださいます。みなさんも、聖霊に満たされ、真理を語るすることができますように。

2A 大胆な証言 9-12

1B 良い行い 9

⁹ 私たちが今日取り調べを受けているのが、一人の病人に対する良いわざと、その人が何によ

て癒やされたのかということのためなら、^{10a} 皆さんも、またイスラエルのすべての民も、知っていたきたい。

ペテロは、初めに取り調べられている内容が、「**一人の病人に対する良いわざ**」とっています。ユダヤ人にとって、良いわざをすることは神からの命令ですから、この取り調べ自体が茶番であることがよく分かります。この言葉によって、取り調べを受けて入るのはペテロではなく、彼らに代わったようなものです。ペテロは、イエス様のことを思っているに違いありません。安息日に、病人を治され、会堂司が憤ったら、「ルカ 13:15 偽善者たち、あなたがたはそれぞれ、安息日に、自分の牛やろばを飼葉桶からほどき、連れて行って水を飲ませるではありませんか。」と言われましたが、18年もの間、腰の曲がった女を解放してくださいました。

このような良い行いでさえ、宗教のしきたりにやその他の束縛によって、するのを控えることがしばしばあります。しかし、キリスト者は善を行うのに勤勉でありなさいと勧められています。控えるのは罪であるともヤコブは言いました。「4:17 こういうわけで、なすべき良いことを知っていながら行わないなら、それはその人には罪です。」

2B ナザレ人イエス・キリストの御名 10

^{10b} この人が治ってあなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの名によることです。

1C 十字架

ペテロは、彼らの顔を伺うことを一切しませんでした。彼らが最も嫌がる二つのことを語っています。一つは、「**あなたがたが十字架につけ**」たということです。十字架はローマによる処刑です。そして、彼らがイエスを死刑に定めたのは、陰謀から陰謀を重ねてのことであり、不当な裁判によって行ったものです。彼らは、イエスの名を既に言わずに、「あの人」などと言って、「5:28 **あの人**の**血の責任をわれわれに追わせようとしている**。」とまで言っています。しかし、ペテロは包み隠すことなく、彼らの隠れて行なった悪を明らかにしました。

パウロは、こう言っています。「エペ 5:11 実を結ばない暗闇のわざに加わらず、むしろ、それを明るみに出しなさい。」世は、「それとなく」という悪がはびこっていますね。それとなく行っているのが悪であることが見えにくいのです。しかし、イエスの真理によってそれらが悪であることが分かっているなら、そのままその罪を告げる、あるいは良い行いによって、自ずと間違っていることを明らかにするのです。

2C 死者からの復活

そして、「**神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの名による**」とっています。

癒しを行うことは、ユダヤ人の間では、その中に救いが含まれていると考えていました。罪がなければ、病はありません。ですから、病が治ることは、罪の赦しを表しています。そして、死者からの復活は、罪から来る死が減んだことを表し、神の救いの究極の姿です。

しかし、サドカイ派の人たちはそのことを信じていませんでした。二人を捕らえたのは、「4:2 イエスを例にあげて死者の中からの復活を宣べ伝えていることに苛立ち」とあります。サドカイ派は、目に見えないものを信じていませんでした。目に見えるものだけを信じており、物質主義者で、合理主義者たちでありました。その彼らの信条に真逆の真理を、ペテロが伝えているのです。しかし、ペテロは臆することなく語りました。

ペテロはここでもイエス様に倣っています。イエス様は、パリサイ派との確執がありました。安息日についての彼らの解釈と、真逆のことを行われていったからです。病を治すことが安息日にはいけないと彼らはしていたのですが、イエス様はそのまま行われました。それゆえに、主は迫害を受けるようになっていきますが、人々の信じていることと真逆であっても、それでも伝える勇気が必要です。そしてその勇気は、聖霊から来ます。

3B 家を建てる者たちの捨てた石 11

11『あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石、それが要の石となった』というのは、この方のことです。

ペテロは、さらにイエス様が引用された、詩篇 118 篇の言葉を語っています。覚えていますか、主がぶどう園の農夫の喩えで、収穫を受け取るために僕を遣わしても、農夫たちが打ちたたき、「息子ならば敬うだろう」と思ったのに、「息子を殺せば、相続財産が手に入れられる。」として、殺してしまった話をされました。その農夫たちは、まさに彼らのことだったのです。そして、このみことばを引用されたのです。家を建てる者たち、宗教の指導者たち本人が、メシアを見捨てることになるという預言です。しかし、要の石になったとは、この方がよみがえり、神の家を建てる要となるということでもあります。つまりは、彼らがイエスを殺したことは、神の中では織り込み済みであり、ご計画の中に入っていたのだ、ということです。

私たちが、福音を語ることに勇気が要るのは、人の犯した罪や悪、十字架という苦しみが、神のご計画の中心にあるということが、人々が思いつきもしないこと、あまりにも愚かなこと、あるいは、つまずきになることを知っているからです。けれども、そこでそのまま伝える必要があります。「1 コリ 2:8-9 この知恵を、この世の支配者たちは、だれ一人知りませんでした。もし知っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。しかし、このことは、「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことがないものを、神は、神を愛する者たちに備えてくださった」と書いてあるとおりでした。」

4B 御名のみにある救い 12

そして、大胆にも次を宣言します。¹²この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」

ここまではっきりと、イエス様の御名によるだけの救いを宣言しているのは、珍しいことです。主は、弟子たちに対して、「ヨハ 14:6 わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」主は山上の説教で、こうも言われました。「マタ 7:13-14 狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広く、そこから入って行く者が多いのです。いのちに至る門はなんと狭く、その道もなんと細いことでしょう。そして、それを見出す者はわずかです。」狭い門とは、イエス様を受け入れる門です。

どんなに良い行いを積んだとしても、救われない、滅んでしまうのです。仏陀にも、ムハンマドにも救いはありません。ユダヤ教でも、その律法の行いによっては救われないのです。哲学や学問によっても救われず、また、家族で同じ宗教を持っても、いっしょに天に行けないのです。もし、他の方法があるのなら、キリストが死ぬ必要はなかったのです。十字架の死は、実はこの方だけが救いの道であり、他に道はないことを教えているのです。「ガラ 2:21 私は神の恵みを無にはしません。もし義が律法によって得られるとしたら、それこそ、キリストの死は無意味になってしまいます。」

真っ直ぐに伝えることは、至難の業です。預言者エレミヤなど、真っ直ぐな預言の言葉を語るのに、内側の葛藤は熾烈なものでした。しかし、聖霊の満たしはそれを可能にします。